

# 研究課題別の成果等に関するデータ 1/2

※研究者人数のみ26年3月末時点。その他の項目は26年6月末時点

中心研究者	論文数	学会発表 件数	国際会議 での招待 講演数	特許件数		受賞数	報道 件数	研究者 人数
				出願数	登録数			
合原 一幸	478	1,104	101	59	1	30	130	119
審良 静男	93	656	131	15	1	31	68	39
安達 千波矢	173	656	88	255	5	21	66	73
荒川 泰彦	125	955	189	115	4	15	57	79
江刺 正喜	252	494	52	78	7	6	77	93
大野 英男	236	827	244	116	2	39	239	82
岡野 光夫	56	508	66	74	4	14	68	117
岡野 栄之	70	383	72	6	0	1	68	64
片岡 一則	350	1,317	177	106	26	56	334	187
川合 知二	152	911	177	76	0	54	117	126
喜連川 優	167	291	43	25	4	58	252	116
木本 恒暢	112	252	41	23	0	12	36	46
栗原 優	10	218	42	84	1	9	39	178
小池 康博	76	292	43	143	10	10	68	104
児玉 龍彦	51	260	25	9	0	0	28	64

# 研究課題別の成果等に関するデータ 2/2

中心研究者	論文数	学会発表 件数	国際会議 での招待 講演数	特許件数		受賞数	報道 件数	研究者 人数
				出願数	登録数			
山海 嘉之	130	246	17	39	7	17	208	44
白土 博樹	58	484	50	28	0	6	93	84
瀬川 浩司	172	647	162	71	4	27	68	122
田中 耕一	45	106	0	129	0	1	32	66
十倉 好紀	410	1,223	317	30	0	29	189	76
外村 彰 (代行:長我部信行)	31	54	25	19	0	1	24	28
永井 良三	177	535	34	68	0	51	96	77
中須賀 真一	28	521	10	52	0	8	231	137
細野 秀雄	333	1,055	204	28	1	47	188	99
水野 哲孝	125	642	140	48	0	18	73	71
村山 斉	50	193	45	5	1	2	181	307
柳沢 正史	12	25	3	2	0	1	59	117
山中 伸弥	65	537	83	120	1	29	162	25
山本 喜久	518	2,793	495	16	5	71	282	317
横山 直樹	85	625	67	174	0	9	121	149
<b>合計</b>	<b>4,640</b>	<b>18,810</b>	<b>3,143</b>	<b>2,013</b>	<b>84</b>	<b>673</b>	<b>3,654</b>	<b>3,206</b>

# 研究成果の公開活動(アウトリーチ活動)の実施状況

## ■ シンポジウムの開催

### □ FIRSTサイエンスフォーラム:

複数の中心研究者が参加する一般向けシンポジウムとして、各地域で開催。様子が地上波テレビ(NHK Eテレ)でも放映

(H22年度:東京2回、大阪1回、京都1回。H23年度:京都1回、宮城1回、東京1回。H24年度:東京1回、名古屋1回、京都1回。H25年度:東京1回。)

### □ FIRST EXPO 2014:

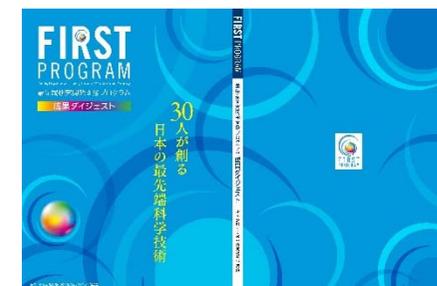
30研究課題が一堂に会したシンポジウムとして、H26.2.28-3.1に東京にて開催。各研究課題の個別ブースの設置や最先端・次世代研究開発支援プログラム(NEXT)の研究者のポスター展示を行い、来場した大学や産業界の研究者・技術者、一般国民との交流機会を提供

### □ FIRST研究成果ビジネスマッチングシンポジウム:

各研究課題と産業界のマッチングを目的として、H25年度に仙台・京都で開催

## ■ 成果ダイジェストの作成

- 研究成果を分かりやすくまとめた成果ダイジェストを作成し、FIRST EXPO 2014で配布。次世代を担う人材育成の観点から、スーパーサイエンスハイスクール指定校(全204校)や全国の公立図書館などに配付



FIRST成果ダイジェスト



# プログラムの事後評価結果(概要)

# 制度設計に関する所見①

## ■ 研究開発推進の柔軟性、中心研究者の高い自由度、基金化

- 研究進捗に応じた、臨機応変かつ柔軟な研究推進が図られ、これを可能とした自由度の高い制度設計や研究費の基金化が、世界トップ水準の成果の創出に大きく貢献
- FIRST終了後に本格化する成果創出も多く、引き続き、社会還元努力の継続が必要

## ■ 研究支援のための新たな仕組み

- 研究者が研究に専念・邁進できるよう、研究支援専門人材を確保し、煩雑な事務手続きなどを研究者に代わって行う「研究支援担当機関」が、高い研究成果の創出に大いに貢献
- 研究支援体制の新設が、研究者サポートを重要視する意識の醸成、支援経験の付与に貢献
- FIRST終了後も、URA(リサーチ・アドミニストレーター)のようなキャリアパスに移行できるよう、大学等における継続的な支援を期待
- 特に、大型研究費の場合は研究支援が重要であり、支援機関の設置の義務付けも要検討

## 制度設計に関する所見②

### ■ 知的財産権の確保・活用に係る体制整備

- 総じて知財確保の重要性認識向上と、積極的・効果的な権利確保・活用の取組が行われたと判断
- 事業終了後の継続的な取組を期待。特に、開示と秘匿のバランスを考慮した戦略的な知財マネジメントが重要
- 実用化を見据えた研究開発は、研究の企画段階から知財戦略を考慮した研究計画立案の視点が重要

### ■ 研究成果の広報、公開活動（アウトリーチ活動）

- アウトリーチ活動の積極的な実施が、出口を意識した研究開発の動機付けに貢献。引き続き、専門家のみには偏らないコミュニケーションを期待

### ■ 研究人材の育成

- 数多くの研究者の参画、異分野・外国人研究者との交流など、交流機会の拡大が若手研究者の能力向上に極めて有意に作用。人材育成に留意した継続的な取組を期待
- 女性研究者の活躍促進は重要な政策課題。多様な発想・視点を取り入れ、組織全体の活性化の観点からも重要。女性研究者に配慮した研究環境の充実を期待

# 成果の社会還元と課題

## ■ 成果の社会還元・波及効果

- 実用化に近い研究課題は、民間企業との連携の下、試作品の開発、知財の管理・運用、臨床試験の実施、製品の上市、国際標準化活動の推進など、成果に応じた適切な取組を実施
- 創出された成果が新たな市場を開拓しつつあり、将来的に大きな経済効果を期待。また、新たな学問領域の創成もあり、FIRSTの実施意義は大きい
- 基礎研究であっても、社会還元という出口を常に意識した研究開発が重要

## ■ FIRST終了後の課題

- 各研究課題がその段階に応じて、次のステージに円滑に展開・発展していくことが極めて重要
- 終期が定まった大型の国家プロジェクトの場合は、当初から終期到来を念頭においた具体的な取組が必要。また、制度運営側も、研究課題側が円滑に橋渡しできるように積極支援することが重要